

朝霞・川越(第2班)

朝霞市における水害・土砂災害年表

発生年月日	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1791 (寛政3年8月)	大風雨	翌日まで大風雨。荒川が洪水となり、入間郡宗岡村で死者15人出る。	無
1910 (明治43年8月)	大雨	荒川大洪水おこる。これにより翌年から荒川の大改修が始まる。	無
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	朝霞町では田畑6町1反・旧内間木村分では田畑11町3反が浸水。	無
1958 (昭和33年9月)	台風22号(狩野川台風)	浸水264戸・倒壊15戸・負傷者2人	無
1966 (昭和41年6月)	台風4号	全壊流出4戸・半壊床上浸水237戸・床下浸水390戸・負傷者1人	無
1976 (昭和51年9月)	台風17号	全壊1戸・一部破損1戸・床上浸水115戸・床下浸水306戸・がけ崩れ6ヶ所・河川氾濫5ヶ所・通行止め5ヶ所	無
1977 (昭和52年8月)	集中豪雨	床上浸水33戸・床下浸水155戸・橋通行止め1ヶ所・畑2.5ha	無
1982 (昭和57年9月)	台風18号	半壊4戸・一部破損1戸・床上浸水445戸・床下浸水368戸・田畑50ha・通行止め94ヶ所・河川決壊1ヶ所・がけ崩れ8ヶ所	有 No.2-1
1991 (平成3年9月)	台風18号	床上浸水579ヶ所・床下浸水418戸・通行止め10ヶ所・田44.8ha・がけ崩れ1ヶ所・河川氾濫5ヶ所	無

志木市における水害・土砂災害年表

発生年月日	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1742 (寛保2年8月)	大雨	未曾有の大洪水あり、利根川、荒川、入間川が氾濫し堤防の決壊は広く96箇所にあんだ。志木市内においては、「宗岡懸樋」は全長201間(約365m)のうちこの洪水で135間が流失した記録がある。	無
1786 (天明6年)	7月の大水	荒川の大水は東大久保(富士見市内)で堤防2か所を破壊し南畑村内を奔流し、佃堤を切り壊し宗岡村一円に浸水した。百姓の居宅等100軒あまりを押しつぶした。	無
1791 (寛政3年9月)	大雨	荒川の洪水。宗岡で死者15人	無
1846 (弘化3年6月)	大雨	6月16日から長雨が降り続き、荒川、新河岸川、柳瀬川が満水し、29日にはさらに大雨となり、堤は各所で決壊した。当時の宗岡村の全戸数284軒寺院11軒の合計295軒のうち、床上浸水280軒、床下浸水13件などの被害が記録されている。	無

1910 (明治 43 年 8 月)	大雨	明治 43 年 8 月 1 日から 16 日にかけて 2 つの台風と低気圧の停滞による大雨は埼玉県内に死者行方不明 324 人、流出倒壊家屋 2,227 戸、破損家屋 15,920 戸、浸水家屋 84,538 戸という甚大な被害をもたらした。志木市においても荒川筋上流部の破堤のため、南畑村ビン沼堤が決壊一面の濁流が宗岡村を襲う。浸水は床上七尺以上、天井も没する惨状となる。	有 No.2-2
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	荒川では久下戸、入間川の各所で堤防が決壊し、戦後最大の被害が発生した。埼玉県内では 40 万人が罹災、死傷者 1,400 人、流出家屋 392 戸、全壊家屋 726 戸、床上浸水 44,610 戸床下浸水 34,334 戸の被害となった。志木市における被災状況は不明	無
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	新河岸川、柳瀬川が氾濫、町域の低地帯一面に大被害をうける。(床上 972 戸、床下 533 戸 冠水田 350 ヘクタール、畑 150 ヘクタール)	無
1982 (昭和 57 年 9 月)	台風 18 号	台風 18 号の影響により平野部を中心に大雨が降り県内全域にわたって大きな被害をもたらした。特に新河岸川では富士見市、志木市、朝霞市、和光市等で多大な被害が発生した。志木市では床上床下浸水世帯 1361 世帯、911 人が避難場所に避難した。災害救助法が適用された。新河岸川で激甚災害の指定を受けた。	有 No.2-3
1991 (平成 3 年 9 月)	台風 18 号	台風は大型で広範囲に雨雲を伴い、また北上するに伴い南海上の前線が活発化したため、埼玉県でも所により 200 ミリを超える大雨となった。県南部及び東部を中心に大きな被害が発生した。与野市、草加市、志木市、朝霞市、及び富士見市の 5 市に災害救助法が適用された。志木市の被害状況は床上浸水 228 戸、床下浸水 603 戸、田の冠水 0.15 h a、道路冠水 50 か所、被災世帯数 832 世帯、被災者数 2,400 人	無
1996 (平成 8 年 9 月)	台風 17 号	志木市の記録によると、総雨量 208mm、時間最大 25mm、床上浸水 45 棟、床下浸水 214 棟、道路冠水は 20 箇所にとんだ。	無
1998 (平成 10 年 8 月)	大雨	局地的な豪雨により、総雨量 249mm、時間最大 28mm、床上浸水 13 棟、床下浸水 49 棟、道路冠水は 17 箇所にとんだ。	無
1999 (平成 11 年 8 月)	大雨	局地的な豪雨により、総雨量 172.5mm、時間最大 25.5mm、床上浸水 12 棟、床下浸水 71 棟、道路冠水は 22 箇所にとんだ。	無
2000 (平成 12 年 7 月)	台風 3 号	台風 3 号により、総雨量 173mm、時間最大 28.55 mm を記録し、床上浸水 15 棟、床下浸水 197 棟、道路冠水は 35 箇所にとんだ。	無

※痕跡等の欄は、有の災害について調査表 N0 を記入する

※参考資料：志木市史、志木市防災危機管理課資料、埼玉県南部河川改修事務所「平成 3 年 9 月台風 18 号水害調査報告書（荒川水系）（平成 4 年 3 月）」

和光市における水害・土砂災害年表 第2班

発生年月日	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1766 (明和3年7月)	大雨	滝河原耕地の田畑が浸水	無
1800 (寛政12年)	大雨	上新倉の三ツ俣、大野前、雑丹袋の荒川堤防が決壊	無
1885 (明治18年7月)	大雨	荒川との合流点付近の越戸川で堤防が決壊	無
1890 (明治23年8月)	豪雨	荒川の堤防が決壊したため、新倉村で、家屋9戸、田地の20%、畑地の8%、白子村で、家屋16戸が浸水	無
1910 (明治43年8月)	梅雨前線	荒川、新河岸川が氾濫し新倉村の田地が浸水	無
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	市街地・農地を問わず広域にわたり家屋損壊等甚大な被害	無
1958 (昭和33年9月)	台風22号(狩野川台風)	家屋損壊：全壊11戸、半壊14戸(家屋損壊の85%は土砂崩れ・崖崩れ、白子川の出水による損壊3戸)、浸水：床上浸水219戸、床下浸水179戸。浸水域は、荒川低地の沖積平野、越戸川と谷中川合流点上流部から下流にかけての谷底平野及び白子川の三園橋から東崎橋の間等 橋梁損壊：白子橋、子安橋、柿木橋等	無
1966 (昭和41年6月)	台風4号	家屋損壊：全壊2戸、浸水：床上浸水10戸、床下浸水161戸(浸水域は狩野川台風の浸水域とほぼ同じ)、道路決壊：2箇所、橋の流出：3箇所、崖崩れ：8箇所(天理教白子分教会下、白子川下、市場下、新倉の下井戸バス停等)	無
1966 (昭和41年9月)	台風26号(風台風)	家屋損壊：半壊12戸、一部破損80戸、非住家18戸、浸水：床下浸水9戸、道路冠水：6箇所 道路不通：4箇所、崖崩れ：1箇所	無
1969 (昭和44年9月)	集中豪雨	浸水：床下浸水43戸(矢島川付近、向原付近、わだち会の一部、白子坂下、和光市駅前、白子南郵便局等(うち、日之出住宅26戸)、崖崩れ：清水住宅、牛房等	無
1982 (昭和57年9月)	台風18号	浸水：床上浸水190戸等(住家128戸、共同住宅58世帯、店舗4戸)(浸水地域：白子川中流部の成和橋～白藤橋～成増橋付近、白子川下流左岸等)、床下浸水77戸(住家35戸、共同住宅7世帯、店舗6戸、工場29棟)(浸水地域：白子川3丁目付近、牛王山南側の県道新倉蕨線沿い等)	無
1991 (平成3年9月)	台風18号	浸水：床上浸水20戸、床下浸水35戸、田畑の冠水約49ha、道路被害：9箇所、崖崩れ：2箇所	無
2005 (平成17年9月)	集中豪雨	浸水：床上浸水26戸、床下浸水14戸、擁壁倒壊：1箇所	無
2014 (平成26年6月)	集中豪雨	浸水：床上浸水31戸、床下浸水31戸、道路冠水：8箇所、自動車浸水：4台	有 No.2-4

※発生年月日、和光市域における被害状況は、主に和光市防災計画VI資料編「和光市における風水害被害」から引用。ただし、平成3年台風18号の記述は、埼玉県の「平成3年9月台風18号水害調査報告書」から引用。

川越市における水害・土砂災害年表

発生年月日	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1742 (寛保2年8月)	大雨	荒川通は古今まれなる大出水にて、利根川の氾濫とも合わせ武蔵の国一円を冠水した。川越市内も入間川筋はもとより、荒川筋の古谷～南古谷一帯の堤防が決壊し大被害を与えた。	有 No.2-5 No.2-6 No.2-7
1859 (安政6年7月)	大雨	荒川の大洪水が発生し、老袋、古谷、南古谷地区に大被害を与えた。	無
1890 (明治23年8月)	大雨	荒川の洪水により古谷、南古谷他に大きな被害を与えた。	無
1910 (明治43年8月)	大雨	荒川、入間川、新河岸川等の大出水により市内低地はすべて冠水し大被害を受けた。堤防は各所で破堤し、流出家屋20戸以上。入間郡全体で死者32名。	無
1938 (昭和13年8月)	大雨	荒川の洪水により沿岸が被害を受ける。	無
1941 (昭和16年7月)	大雨	荒川、新河岸川に洪水が発生し、被害を受ける。	無
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	荒川筋の市内古谷本郷において洪水により破堤する。市内低地全域で大被害を受け、死者6名、床上浸水476戸に達した。	有 No.2-8
1966 (昭和41年9月)	台風26号	川越市内各所が浸水、死者1名、家屋全半壊287戸に達した。災害救助法適用の適用を受ける。	有 No.2-9
1982 (昭和57年9月)	台風18号	新河岸川の洪水により市内の沿川に被害を与えた。床上浸水330戸、床下浸水1,089戸。激甚災害の適用を受け新河岸川放水路ができた。	無
1991 (平成3年9月)	台風18号	新河岸川の出水により沿川に被害を与えた。床上浸水27戸。新河岸川激甚災害の指定を受ける	無
1996 (平成8年9月)	台風17号	新河岸川の出水により、沿川に被害を与えた。床上浸水50戸。	無
1998 (平成10年8月)	集中豪雨	新河岸川の大出水により市内各所で越水し、沿川に大被害を与えた。床上浸水731戸、床下浸水1,390戸。新河岸川激甚災害の適用を受け、堤防の補強の他、市内寺尾地区に洪水調節池を設けた。	有 No.2-10
1999 (平成11年3月)	集中豪雨	新河岸川の出水により沿川に被害を受けた。床上浸水136戸、床下浸水829戸	無
2000 (平成12年9月)	台風14号	新河岸川の出水により沿川に被害を受けた。床上浸水54戸、床下浸水273戸	無

※昭和22年カスリーン台風以降、荒川、入間川の改修が進み川越市内では両川による溢水や破堤はない。その後の被害はすべて新河岸川流域となる。

所沢市における水害・土砂災害年表

発生年月日	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1954 (昭和29年9月)	台風14号	砂川堀が氾濫し、米軍基地の排水を受ける下富ダムが決壊した。大字下富の畑約7町歩、中富の山林10数町歩、三芳村の畑約数町歩が冠水した。氾濫水は基地の汚水を含み被害甚大。 (出典：所沢市史現代史料)	有 No.2-11

1978 (昭和 53 年 7 月)	大雨	柳瀬川 : 床下 17 戸、床上 1 戸、樽井戸川 : 床下 1 戸、砂川堀下水 : 床下 10 戸、上 3 戸	無
1982 (昭和 57 年 9 月)	大雨	柳瀬川 : 床下 35 戸、床上 13 戸、東川 : 床下 7 戸、床上 7 戸、樽井戸川 : 床下 1 戸、砂川堀下水 : 床下 3 戸、床上 2 戸	無
1986 (昭和 61 年 9 月)	大雨	東川 : 床下 6 戸、床上 1 戸、樽井戸川 : 床上 2 戸、砂川堀下水 : 床下 8 戸、床上 1 戸	無
1988 (昭 63 年 8 月)	大雨	東川 : 床下 15 戸、林川 : 床上 2 戸、樽井戸川 : 床下 4 戸、床上 6 戸	無
1989 (平成元年 7 月)	大雨	柳瀬川 : 床下 6 戸、東川 : 床下 24 戸、床上 33 戸、富士見江川 : 床下 3 戸、砂川堀下水 : 床下 5 戸、床上 2 戸、	無
1990 (平成 2 年 9 月)	台風 21 号	東川 : 床下 69 戸、床上 1 戸、店舗 1 戸 林川 : 床下 7 戸	無
1990 (平成 2 年 11 月)	台風 22 号	東川 : 床下 67 戸、床上 1 戸、店内 1 戸 林川 : 床下 7 戸	無
1991 (平成 3 年 8 月)	台風 11 号	柳瀬川 : 床下 6 戸、床上 5 戸 東川 : 床下 18 戸、床上 13 戸、店舗 8 戸 富士見江川 : 床下 1 戸、樽井戸川 : 床下 1 戸	無
1991 (平成 3 年 9 月)	台風 18 号	柳瀬川 : 床下 2 戸、床上 1 戸 東川 : 床下 21 戸、床上 5 戸、店舗 3 戸 林川 : 床上 1 戸、砂川堀下水 : 店舗 1 戸	無
1992 (平成 4) 年 7 月 15 日	台風 18 号	柳瀬川 : 床下 10 戸 東川 : 床下 133 戸、床上 32 戸、店舗 1 戸、 砂川堀下水 : 床下 48 戸、床上 9 戸	無
1993 (平成 5 年 8 月)	台風 18 号	東川 : 床下 9 戸、床上 8 戸 砂川堀下水 : 床下 4 戸	無
1995 (平成 7 年 6 月)	豪雨	東川 : 床上 1 戸、砂川堀下水 : 床上 24 戸	無
1996 (平成 8 年 9 月)	台風 17 号	東川 : 床下 36 戸、床上 14 戸 砂川堀下水 : 床下 2 戸、店舗 2 棟	無
1997 (平成 9 年 6 月)	豪雨	柳瀬川 : 床下 5 戸、床上 1 戸、東川 : 床下 1 戸 床上 1 戸、砂川堀下水 : 床下 7 戸、床上 2 戸	無
1998 (平成 10 年 6 月)	豪雨	柳瀬川 : 床下 7 戸、床上 2 戸、東川 : 床下 19 戸、床上 1 戸、林川 : 床下 6 戸、床上 1 戸、 砂川堀下水 : 床下 7 戸、床上 1 戸、店内 2 軒	無
1999 (平成 11 年 8 月)	豪雨	東川 : 床下 14 戸、床上 9 戸、店舗内 2 戸、倉庫 1 戸	無
2000 (平成 12 年 9 月)	豪雨	柳瀬川 : 床下 2 戸、東川 : 床下 28 戸、床上 15 戸、 店内 2 戸	無
2001 (平成 13 年 8 月)	台風 11 号	柳瀬川 : 床下 16 戸、床上 1 戸、砂川堀下水 : 上 4 戸、 店内 6 戸、事務所 2 戸	無
2003 (平成 15 年 8 月)	雷雨	柳瀬川 : 床下 5 戸、東川 : 床下 42 戸、床上 33 戸、 林川 : 床下 1 戸、床上 2 戸、砂川堀下水 : 床下 1 戸、 店舗内 23 戸	無
2005 (平 17) 年 9 月 4・5 日	台風 14 号	柳瀬川 : 床下 1 戸、東川 : 床下 8 戸、林川 : 床下 15 戸、 砂川堀下水 : 床下 85 戸、床上 12 戸	無
2010 (平成 22 年 6 月)	大雨	柳瀬川 : 床下 12 戸、床上 3 戸、東川 : 床下 10 戸、 床上 2 戸、林川 : 床下 2 戸	無
2010 (平成 22 年 7 月)	大雨	柳瀬川 : 床下 15 戸、東川 : 床下 12 戸、床上 2 戸、 砂川堀下水 : 床上 1 戸	無

* 被災家屋等は、①「所沢市風水害履歴」②所沢市 HP「所沢市風水害履歴」から抽出した。

*本調査の被災家屋数は、前項資料に記載された1件について1戸とした。ただし、少数ではあるが、1件が数戸の場合もあると推測される。

*被災個数は、河川・都市下水路の流域別に分けて掲載した。

*掲載した水害は、浸水家屋概ね10戸以上とした。

*②所沢市HP「所沢市風水害履歴」は、平成元年から同23年の期間である。

狭山市における水害・土砂災害年表

発生年月日	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1727 (享保12年7月)	大雨	荒川本郷堤(川越市)など5か所が破堤。 町中に1~3、4尺の出水	無
1742 (寛保2年8月)	大雨	7月27日から6日6晩雨が降り続いた。 荒川、利根川が氾濫し死者3,900人余、救助されたもの186,000人。	無
1859 (安政6年)	大雨	市ノ川筋、入間川筋で破堤 「出水図」荒川上流河川事務所HPにあり	無
1861 (万延元年)	大雨	文久元年5月には、入間川の洪水で被害を受けた下奥富村の農民が、堤防破堤の修復を川越藩へ要請の記録あり。	無
1910 (明治43年8月)	台風、低気圧前線	7月25日以来の台風、低気圧前線の影響で8月10日に狭山市内で5か所の堤防決壊、道路の寸断、橋梁流出など市民生活に大きな影響を与えた。	有 No.2-12
1928 (昭和3年8月)	豪雨	豪雨の影響で富士見橋(現本富士見橋)上流右岸60m決壊。そのほか、加冶村、川寺、岩淵、岩沢、元加冶村、野田、仏子、水富村、笹井、柏原村等の橋は流失または決壊。水富村笹井地先の下流十余ヶ村水田用水取り入れ口の堰五十間、豊岡地先の豊水橋の一部は橋脚約67寸沈下し交通危険な状態になった。	有 No.2-13
1937 (昭和12年7月)	豪雨	降雨量478ミリ(名栗村)、昭代橋、富士見橋が被害。笹井堰が決壊(254m)、住民から入間川町長宛てに富士見橋、昭代橋復旧の要請記録あり。	有 No.2-14
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	入間川が増水し、柏原村で堤防決壊、床上・床下浸水40戸。水富村では笹井ダムが破壊、流出家屋13戸、倒壊・半倒壊家屋7戸、床上・床下浸水家屋100戸の被害。	有 No.2-15
1949 (昭和24年9月)	キティ台風	復旧工事中の笹井ダムが再度決壊。	無
1954 (昭和29年9月)	台風	入間川に架かる富士見橋流失。	無
1959 (昭和34年9月)	伊勢湾台風	秩父雨量265ミリ。暴風による家屋の倒壊被害が大。住宅全壊20戸、半壊62戸	無
1966 (昭和41年9月)	台風26号	住宅全壊17棟、半壊323棟、床下浸水18棟 狭山市被害額4億7千万円;災害救助法適用	有 No.2-16
1974 (昭和49年9月)	台風16号	床下浸水47棟、橋梁流出1か所 雨量:飯能市495mm、入間川流域220~320mm。	無
1977 (昭和52年7月)	大雨雷雨	入間川・入間地区で床上浸水2棟、床下浸水59棟	無
1977 (昭和52年8月)	大雨洪水	入間川地区などで床下浸水9棟、橋梁流出1か所、河川護岸損壊7か所(入間川)	無

1979 (昭和 54 年 10 月)	台風 20 号	住宅半壊 26 棟、床下浸水 1 棟、入間川堤防一部流出	無
1982 (昭和 57 年 8 月)	台風 10 号	住宅半壊 1 棟、床下浸水 4 棟、入間川堤防決壊寸前	無
1982 (昭和 57 年 9 月)	台風 18 号	床上浸水 21 棟、床下浸水 247 棟。雨量：三峰 336mm、名栗 348mm、川越 338mm。入間川、新河岸川で大被害、被害総額 211 億円。新河岸川が激特事業に指定。	有 No.2-17
1998 (平成 10 年 8 月)	台風 4 号	住宅床上浸水 18 棟、床下浸水 80 棟、くずはき橋流出、入間川奥富堰損壊 (45m)	無
1999 (平成 11 年 8 月)	熱帯性低気圧	床上浸水 3 棟、床下浸水 6 棟、河川被害 28 か所、道路冠水 8 か所	有 No.2-18

※痕跡等の欄は、有の災害について調査表 NO を記入する

※参考資料：狭山市史（通誌編）

富士見市における水害・土砂災害年表

発生年月日	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1742 (寛保 2 年 8 月)	暴風雨	この大洪水の被害は近世最大の水害と言われ、大久保村北隣の久下戸村（川越市）の名主奥貫友山の記録によると、利根川・荒川をはじめ関東の河川はすべて増水し堤防は決壊し、田畑や民家を激流が襲っている。なかには屋根まで浸かったり、家ごと流された家族あった。関東で 96,035 ヶ所が切れ潰家・流家は 18,153 軒、死者 1,058 人被害を受けた村は 4,094 カ所村と伝えられている。大久保村では、荒川沿いの堤の大半が決壊し、また新河岸川においては堤 324 間のうち 294 間が決壊している。奥貫友山は自ら蔵を開き、久下戸村をはじめ上南畑村に雑穀 4 石、下南畑村に麦 3 石 9 斗、稗 2 石 8 斗を与えている。	無
1758 (宝暦 8 年) ~ 1846 (弘化 3 年)	暴風雨	南畑は近世中期までは「難畑」あるいは「難波田」と記していたが、水害に悩まされた土地のため縁起を担いで安政元年（1772）に「南畑」に改めたと伝えられている。その後も荒川沿いの堤防の決壊により大きな被害を受けている。	無
1910 (明治 43 年 8 月)	台風	南畑村に隣接する古谷村では荒川が堤防の 3 か所が決壊し、南古谷・南畑・宗岡の全域に流れ込んだ。南畑村では 6 人の死者を出し、建物の被害は住宅の全壊 17 戸・半壊 8 戸・流出 10 戸、非住宅が全壊 34 棟・流出 5 棟にのぼり、村内全戸の 528 戸が床上浸水となり、農作物は全滅の状態となった。水谷村でも、荒川と柳瀬川の堤防決壊により住宅 64 戸浸水し、うち全壊 3 戸・半壊 3 戸、非住宅建物 115 棟にも浸水し、全壊 11 棟・半壊 8 棟・破損 12 棟・流出 2 棟の被害を生じた。また田畑冠水による農作物にも大きな被害を出した。	有 No.2-19
1758 (宝暦 8 年) ~ 1846 (弘化 3 年)	暴風雨	南畑は近世中期までは「難畑」あるいは「難波田」と記していたが、水害に悩まされた土地のため縁起を担いで安政元年（1772）に「南畑」	無

		に改められている。その後も荒川沿いの堤防が決壊し、大久保村を始め南畑地区に多大な被害を及ぼしている。	
1913 (大正 2 年 8 月)	暴風雨	荒川上流の山田村 (川越市) 堤防約 70 間が決壊。その越水が下流地域の古谷・南畑などの各村にも流れ込み多くの家が浸水状態となり、広大な田畑が冠水した。南畑村では村全体が低地ということもあり、湛水期間が長引き、特に農作物への被害が甚大となった。同村内でも堤防が決壊し (5 か所・約 57 間) 浸水家屋は床上 49 戸・床下 213 戸と全村に及んだ。	無
1932 (昭和 7 年 11 月)	暴風雨	南畑村の吉田清八氏の記録によると、「14 日朝より東北の風にて降り始め、次第に雨強くなり大暴風と化し樹木は倒壊し耕地の稲掛は吹き飛ばされ、畦畔の稲は皆流れ出し、中丸堰より荒川に流失せるもの・・・」この記録によると、引き上げた稲束が全部で 4336 束、被害田七反一畝、被害農家 10 戸であった。そこで一反あたり 565 束との基準を設け、各被害農家の被害耕作面積で分配したとある。	無
1941 (昭和 16 年 7 月)	暴風雨	荒川の氾濫により南畑村は大きな被害に見舞われた。7 月 23 日の洪水による濁流が家々の庭先に流れ込み、冠水状態は 15 日間にも及んだ。当時は日中戦争下でもあり、出征者も多いため働き手が少なく、石油発動機・脱穀機・貯蔵米麦などを水浸しにした農家もあり、ほとんどの農家が多大な被害を被った。水稲は全滅し、畑作の大豆なども腐敗した。	無
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	柳瀬川の氾濫により新築まもない住宅密集地へおしよせた。特に高芝地区は団地内の地形がすり鉢状の形となっており、また東側に新河岸川の堤防あり、最も水がたまりやすい状況であったため、水が引かず押入れの中段まで達している。床上浸水 689 戸、床下浸水 138 戸、避難収容人数が 2,630 人の被災となり、災害救助法が適用された。	有 No.2-20
1982 (昭和 57 年 9 月)	台風 18 号	本州を縦断した台風 18 号の総雨量は 9 月 10 日の降り始めから 12 日の降り終わりまで、三峰 336mm、名栗 348mm、川越 338mm で、荒川上流域にほぼ平均して降りました。この雨で人口増加の著しい、入間川、新河岸川は大きな被害を受け、特に新河岸川では被害総額 211 億円にも及ぶ甚大な被害となった。この災害で新河岸川は、国の激甚災害対策特別緊急事業の指定を受け、集中的な河川改修工事が実施された。新河岸川では流域の、朝霞市、志木市、富士見市で浸水家屋 9,285 戸に及ぶ深刻な被害を発生させ、富士見市においては床上浸水 1,031 戸、床下浸水 1,254 戸河川決壊 4 か所の被害となり、災害救助法が適用された。	無

1991 (平成3年9月)	台風18号	台風第18号は、9月15日に沖の鳥島の南海上で発生し、沖縄の南海上を経て北東に進み、19日夜には房総半島の沿岸に接近した。その後本州の東海上を北東に進み、20日に三陸沖で温帯低気圧に変わった。また、この期間本州の南岸に前線が停滞し、活動が活発となったため、紀伊半島から東海、関東、東北の太平洋側で大雨となった。富士見市においては床上浸水480戸、床下浸水1,540戸の被害となった。	無
------------------	-------	---	---

※痕跡等の欄は、有の災害について調査表NOを記入する

旧上福岡市（ふじみ野市）における水害・土砂災害年表

発生年月日	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1742 (寛保2年8月)	記述無し	福岡新田で田畑の浸水被害。	無
1808 (文化5年6~7月)	長雨、大雨	下福岡を中心に浸水被害。	有 No.2-21
1846 (弘化3年6~7月)	大雨	福岡新田で14軒が浸水。	無
1858 (安政5年7月)	記述無し	福岡新田で田畑の浸水被害。	無
1859 (安政6年7~8月)	大雨	福岡新田で7軒浸水。	無
1890 (明治23年8月)	強雨	川崎・中福岡・福岡新田・下福岡・駒林地区で、床上浸水30戸、床下浸水59戸。	有 No.2-22
1907 (明治40年8月)	台風	洪水により新河岸川堤防が2ヶ所で決壊。長さ21m、11mが破損し水田の浸水被害。	無
1910 (明治43年8月)	台風	荒川堤防の決壊により、川崎地区北東部・滝地区東部・下福岡全地区・中福岡地区東部・福岡新田地区東部・駒林地区東部が水没。負傷者1人、家屋全壊2戸、半壊1戸、家屋流失1戸、橋（養老橋）流失1ヶ所、床上浸水戸数及び人数265戸・1508人、床下浸水戸数・人数12戸・81人。	有 No.2-23
1913 (大正2年8月)	台風	下福岡・川崎・福岡新田・駒林で浸水被害。	有 No.2-24
1914 (大正3年8~9月)	台風	8月13日・8月29日・9月14日の3回にわたり新河岸川氾濫。滝・下福岡・福岡新田・駒林で浸水被害。	無
1941 (昭和16年7月)	台風	川崎・滝・福岡新田・駒林の一部と下福岡の大部分が浸水。	有 No.2-25
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	新河岸川沿岸の被害は軽微。福岡村では田畑が92アール浸水。	無
1968 (昭和41年6月9日)	台風4号 台風26号	浸水100戸。 浸水100戸、家屋破壊2960戸、負傷者3人。	有 No.2-26
1982年 (昭和57年9月)	台風18号	床上浸水27戸、床下浸水118戸。	無

※痕跡等の欄は、有の災害について調査表NOを記入する